

## 令和元年度 第2回「教育長と語る会」

長崎県教育委員会では、教育改革などをはじめとした教育の課題について、学校で中心となって活躍している教職員が教育長と直接懇談して相互理解を深め、今後の教育活動に生かすことを目的に、毎年「教育長と語る会」を開催しています。第2回目となる今回は、1月30日（木）に県内の公立小・中学校から17名の先生方が参加し、「これからのふるさと教育」をテーマに実践紹介・意見交換を行いました。

### 「ふるさとを活性化するキャリア教育充実事業」について



長崎県教育委員会は、「ふるさとを活性化するキャリア教育充実事業」として、県内6地域を指定し、優良企業見学や起業体験活動を核とした職業体験学習プログラムの開発・普及を進めています。この職業体験学習プログラムは、子供たちが、地域の課題解決や活性化に向けて積極的に活動している人々に出会い、新たなアイデアや自分たちができることを考えることにより、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、ふるさとの将来を担おうとする実践力を育むことを目的としています。



### 実践紹介・意見交換の様子



それぞれの地区の特色ある実践が紹介されました。地域と学校が連携して協力体制を整え、児童生徒が意欲的に学習していることがうかがえました。

### 【参加者の声から】

- 1 学期のスタートは何から始めればいいのか悩んだ。「まず起業体験活動の一部を経験させるといいのではないかと職員間で協議し、地域の良さを学ぶとともに、できる範囲で販売活動から取り組むこととした。
- 物を売ってお金を得ることには、責任が生じる。このことを生徒が知るのには、経済や社会の仕組みを知る上でも、意味深い活動であると言える。
- 相手とのやり取りや話し方の工夫などを通じて、コミュニケーション能力が身に付いてきた。
- 生徒には小さな失敗を重ねながらも、成功体験を積み重ねることに、この取組の意義が感じられる。当該学年だけでなく、学校全体で当事者意識をもって取り組むことが大切。活動を重ねるにつれて地域とも密接になり、学校に足を運ぶ人が増えた。
- 地域の課題をしっかりと把握し、「何をすることがふるさとの活性化につながるのか？」という視点は大事だと思う。生徒を育てる、人を育てるということで考えれば学力を伸ばすことも大切。その上で商品売る、開発するといった学習活動を通して、生徒の人間力を高めていきたい。

## 池松教育長からお礼のあいさつ(抜粋)

子どもたちには「ここで生まれてよかったな」と故郷を愛する気持ちをもってほしいし、その気持ちを小さいときから染み込ませることが大切です。小学校から高校までの間に、いかに地域と心理的繋がりをもたせ、「地域で大事にされているなあ。」と子どもたち自身が感じられるような教育を展開する必要があります。これは、「ふるさと教育」の中だけでなく、各教科の学習を通して、そのような気持ちが生まれてきてほしいと思います。

現在、県立学校でも地域の課題を見つけて、どう解決していくかというふるさと教育を実践しています。発達段階に着目すれば、小学校では、外遊びや畑で泥んこになるといった原体験をしたり、一つの勉強として地域の文化や歴史を学んだりします。中学校になると、本格的に地域学習に取り組みます。そして、高校の「ふるさと教育」でまとめる活動、さらに地域を活性化する活動とつながります。

このように、それぞれに段階を踏みつつ、地域によって連携できるところは連携しながら、ベースとなる小・中学校でしっかりと児童生徒を育てていただいて、土台を高くして、高校での「ふるさと教育」につなげてほしいと思います。

今まで以上に、小中高の連携を深めることが必要になります。各校においては、課題は課題として、しっかりと抽出していただいて、改善すべき点があれば、ぜひ私たちにも教えていただきたいと思います。今後の各学校における取組に期待しています。今日は本当にありがとうございました。



令和2年1月30日  
長崎県教育委員会  
教育長 池松 誠二